

河川愛護月間推進標語選定審査会 審査員講評(順不同)

石橋真理子審査員(ライター・ママチャリネット主催)

地域の川を愛する皆さんの気持ちが伝わってくる標語ばかりで、このような素直な気持ちで川を守ってくれているなんて、嬉しい限りです。

「川が好き 川にうつった 空も好き」は、川がきれいだと心もきれいになる、そんな感じがよかったです。スカッと抜けた爽快感もあり、気持ちのよい作品でした。

「川遊び 帰り間際のゴミ拾い」は、具体的でわかりやすいところがよかったですね。この標語で、一人でも多くの人が、ゴミを持って帰ろうと思ってくれればと思います。

小倉紀雄審査員(東京農工大学名誉教授(水環境保全))

標語を分類してみると、清流の状態をあらわす「すんだ」「きらきら」などの言葉の作品があり、そのうち「川が好き 川にうつった 空も好き」の「川にうつった」も素敵な表現と思います。

川のゴミ拾い、川掃除とか、清流を守る、取り戻したいという思いが込められた作品や「ぼく魚 ゴミの中では 泳げない」のように生き物の立場で考えるおもしろい発想の作品がありました。

水辺の未来や夢を語り、川は宝物なので共有しようという作品もあり、川を愛するためのいろいろな尺度があると思いました。

田倉米造審査員(熊谷市ムサシトミヨをまもる会(第5回日本水大賞受賞)代表)

願望だけでなく、具体的な実際の行動がともなっている標語がよいと思いました。

ムサシトミヨ(熊谷市元荒川源流に住む稀少淡水魚)の増殖をやっているような学校からもそういった標語が出てきてほしいと思いました。子供達の中には環境にもっと関心を持っている子もいると思います。

四方洋審査員(元サンデー毎日編集長)

「川が好き 川にうつった 空も好き」は、川と空があって、イメージが広がり、スケールの大きさが感じられます。

子供の作品のセンスがよく、子供の感激があり、新鮮な驚きがあって、おもしろい。

「メダカさん あしたもいっしょに あそぼうね」も子供の素直な気持ちが出ていてよいと思いました。

具体的な行動をともなったものが、魅きつける力を持っています。